

学生レポーター
が見た！

見て・知って・好きになる！

埼玉モダンたてももの散歩

Saitama Modern Architecture

小池煙草店（秩父市）

2014年8月 訪問

埼玉モダンたてももの学生レポーター
埼玉大学教養学部 島澤 陽平



秩父市のメインストリート・番場通りと、昭和通りとの角に建てられています。

昭和初めに建築されたといい、角を丸くしたおしゃれな外観が目を引きま

す。今の持ち主の方の、材木商を手広く商っていたひいおじいさんが、自ら設計をしたとか。特に外壁の仕上げについては、東京浅草の職人さん方に依頼したほど凝った建物だったそうです。

現在は、たばこ自動販売機による営業のみで手売りはしていません。

開店当初、専売公社発行の煙草新聞の全国版に「秩父にモダンな建築デザインの煙草店が…」と紹介されたこともあったそうです。当時、このようにスポットライトを浴びたということを思いながら眺めているだけでも、懐かしさみたいなものが感じられます。

もう少し近づいて、細かなところを見てみると…

電灯のカバーがなんとレトロな雰囲気を出しています。その上の波型にデザインされている軒も、かわいらしさがあります。



屋根の近くには、十字型の装飾品が取り付けられています。

このような細かなデザインは、設計したひいおじいさんが考えたものなのだから。



2階の窓も、細かく枠が入られていて、作るのにとても手間と時間がかかっていることが想像できます。

枠の形が、なんとなく「木」の文字に見えます。

当時材木商を営んでいたひいおじいさんの、隠されたこだわりなのでしょう。



当時、煙草を販売していたというカウンターです。

一見、レトロな感じですが…

これは開店当初のものではなく、昭和の中頃の改修によるものであるといえます。

建物が建てられたときの姿は、写真のような平らの窓ガラスではなかったとか。

角のカーブに合わせ、湾曲した厚手のガラスを東京に特別注文したものを使用していたとのこと。窓の下は、青磁色のタイルが張られていたそうです。

よく見ると、となりの建物とつながっているように見えませんか？

実は、この建物がつくられるとき、煙草店だけでなく、隣の建物と一緒に、長屋づくりでつくられたそうで、つながっているのは、その名残であるといえます。



持ち主の方のご厚意で、今回特別に、建物内部を見学させていただきました。



店のコーナーには、鋳型による「煙草小売所」という看板が掛けられています。当時、煙草は国の専売品であり、日本専売公社からの営業許可がなければ販売できなかったため、いわば独占的に売れることを表示したライセンスだそうです。見ると、威厳のようなものを感じます。

床から天井に向かって伸びる大黒柱。

いまでも輝きがあって、とても重厚感があります。

この大黒柱は木をそのまま使っていますが、これも曾祖父のお気に入りだったとか。



奥にある戸棚ですが、下側にたくさんの引き出しもあります。

煙草を入れておくものだろう、と思ってしまいましたが、実は、昔はこのお店で小間物屋も商っていて、この戸棚に糸や毛糸等を保管していたそうです。

(戸棚は縦175cm、横180cm、奥行き30cmありました。)